

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4370103725		
法人名	有限会社 ジャスト・サポート		
事業所名	グループホーム やすらぎの郷たつだ		
所在地	熊本市北区龍田町弓削1099-27		
自己評価作成日	平成25年3月7日	評価結果市町村受理日	平成25年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成25年3月26日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームの基本理念をスタッフ全員で共有し、利用者一人ひとりの個性を理解したケア、対応に繋げている、また、入居者本意の生活・自己決定・意思の尊重を大切にして過剰的で安心と満足ある生活の提供に取り組んでいる。医療面での体制も毎週木曜日に各週、1階・2階交互の往診(定期往診)にて対応しており、利用者の安心感と医療面でのバックアップとなっている。地域行事参加や、ホームへの行事へ地域の参加を促して地域との触れ合いを大切に、地域と共に歩むホームを展開している。また、家族との楽しい時間を過ごしてもらえるよう季節ごとの家族参加行事(お花見・バスハイク・クリスマス会など)に力を家族と共に歩むホーム作りに努めている。また、家族への情報伝達も大切にしている。生活や身体状況変化の電話連絡や面会の際の伝達はもちろんのこと、地域への働きかけや、関わり状況を把握していただけるよう運営推進会議議事録を送付したり、やすらぎ便利にて利用者の生活状況や表情を見ていただいている。それらを基に安心と信頼関係の構築に努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

一人ひとりの個性を尊重し、少人数での共同生活を楽しく家庭的に過ごせる“家”であるために、職員は掲げた理念を共有し笑顔あふれるホーム作りに取り組んでいる。双方の管理者は互を信頼し責務にあたる姿は、職員のチームワークにも繋がり、一階・二階それぞれのユニットの垣根を超え、ひとつ屋根の下の交流が図られ全職員で温かな介護で入居者に関わっている。昨夏は男性職員による、竹の切り出しから取り組んだ『そうめん流し会』には地域の方々を招待し和やかな時間を共有するなど、今回の評価でも意欲的な取り組みが数多く確認された。手作りのホームパンフレットには、入居者・家族・地域一緒になってホームを作っていきたいことが記されており、今後も職員の積極的な取り組みがますます活かされた『やすらぎの郷たつだ』が、地域の中で活躍して行くことが大いに期待される。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ、事業所の分かりやすい所に掲示している。また、常に方針・目的として理念に添っているか話し合い、共有し、ケアに活かすように取り組んでいる。	基本理念四項目の一つに『家庭、地域と共に歩む・・・やすらぎの郷』を掲げ、明るく笑顔の絶えない安心して過ごせるホームに努めている。理念はホーム内の掲示をはじめ、ケアを振り返る機会をもち共有を図っている。新人研修会の中でも説明を行い、同じ志でこれからの業務に当たることを伝えている。また、家族へも利用開始時や家族の集まる機会に説明し、ホームの理解に繋げている。	推進会議の中でも年度初回到り理念やホームの取り組みについて説明を行っており、今後も継続した理念の啓発により、更に地域の中のホームとし認知されていくことが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員となるように、町内会費の支払い、地域への協賛金などにも貢献している。交流があるよう、回覧板や年度の隣保会議への出席、ホーム行事の参加や、地域行事への参加をし、相互の交流ができています。	地域の中のホームとして地域の初会合に管理者が参加したり、子供の廃品回収、掃除にも積極的に参加している。夏祭りや運動会等の地域行事では、ホーム用の場所も確保されているなど地域に理解されてきていることが窺える。今年度地域の方を招待した『そーめん流し会』は大好評であり、職員の自信にも繋がったようである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、シンポジウムの案内や介護についての不明な点は、気軽に訪問し相談をしていただけたよう伝えられている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価状況や、改善内容を報告している。その際、改善策を説明し、意見も取り入れ向上に生かしている。又、行事内容、結果報告をしたり、利用者の方の状況を説明し、場合により理解や協力をお願いしている。	地域代表者や包括職員、入居者及び家族をメンバーとして定期的開催される会議は、ホームの現況報告後それぞれの立場からの提案や意見交換が行われている。消防団の活動についても情報提供が行われており、まずはホームを知ってもらうことから始めたいと話が進められている。また、外部評価についても五月の会議で結果報告の予定が告げられている。	現在、家族の参加は固定されており、参加が得られない会もあったようである。今後は全家族へ呼びかける事で参加が増えることも期待され、意見が反映された会議となっていくと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	集団指導への参加や不明な点を相談したりし、毎月1回(各1階・2階交互に)熊本市より介護相談専門員の訪問をしてもらい入居者との交流を図ってもらい、情報の共有に努めている。また、生活保護関係では、担当部署と連携を図っている。	運営推進会議への包括職員の参加や介護相談員の訪問により、ホームや入居者の現況を把握してもらっている。また、管理者は質問や相談事項がある場合は、すぐに電話連絡を行いアドバイスや指導を受け運営に活かしている。今後も積極的にホームの取り組みを発信していきたいと語っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を実施しており、玄関の施錠や拘束がもたらす弊害について理解しており、居室・玄関を含め施錠はしていない。身体拘束を行わない方針で取り組んでいる。	身体拘束に関するマニュアルを整備し勉強会の中で、拘束や施錠の弊害、スピーチロックについても認識を共有している。職員は常に入居者の目線で語りかけており、外出希望や不穏時には庭先を散歩したり上・下のユニットへ交流に出かけ安心してもらうなど行動を制限しない寄り添いのケアで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について学ぶ機会を持ち、虐待の内容などについて勉強会を実施している。スタッフ間にて虐待が見逃されないように話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者虐待の経済的虐待と共に、青年後見人制度についての必要性や仕組みについて話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する不安や疑問点・解約についても含めて、入居契約時に時間をかけて十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活の不満、苦情などはその都度、傾聴し対応を行い、生活の中で組み取っている。また、家族会等にて家族アンケートを実施し、意見を伺う機会を作ると共に、意見書も玄関に設置している。	入居者には日々寄りそいや傾聴の中から意見や思いを確認している。家族の要望については来訪時や家族会、アンケートを実施し把握に努めている。また、ホーム内・外の相談窓口についても説明を行っている。管理者は入居者・家族が意見や要望を気軽に言えるようなホームの雰囲気にも努め、要望が出された場合は、真摯に対応策を検討し改善していきたいと語っている。	実施されているアンケートを活用するために、今後は内容や収集方法などを工夫することで、入居者・家族の思いが更に把握され、運営に反映されていくことが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングを行い、内容により、代表者へ報告しており、意見や提案など聞く機会として反映させている。	ミーティングや日頃の業務の中で職員の意見や提案を確認している。現在、入居者の高齢化も進み、ひじ掛け椅子を増やしたり、ビデオによる活動報告を鮮明に行うために新しいテレビの購入が検討されている。ホームは双方の管理者が常に情報交換や連携を図り、職員が意欲を持って働ける職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの状況については、日報やその他、定期的な報告によって状況把握されており、処遇に関しても現場の意見を反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフのスキルアップに関しては、理解されており勉強会や研修参加の働きかけがあり、育成に努めている。研修参加などについては職員の意見を反映される。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加へ協力的に働きかけがあり、その中でブロック会議にて同業者との交流機会が保たれている。同業者との連携を図り、質の向上へと繋がるよう助言される機会となっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談後に面接を行っている。それにて本人や家族からの不安なこと等を聞き取ると共に他施設職員と綿密な情報収集が出来るよう、機会を設けている。利用時には、その情報を基に安心できる対応に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の際に、インテークシートを持ち寄り、情報収集と共に要望などの把握に努めている。また、「契約の際にも聞く機会を作っており、医療面や入院の対応の説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況に合わせその時に必要とされるサービスの情報提供やアドバイスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で食事後の食器拭きや、一緒に掃除をしたり、レクリエーションの時間にラジオ体操や一緒に新聞を読んだりしながら、暮らしを共にする関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	身体状況電話連絡以外にも、面会の際など世間話を含め家族の悩みや、利用者の状況報告や今後の対応について話し合い、支える関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方へ年賀状や、やすらぎ便りを送付し、関係が途切れないよう支援している。また、家族以外の面会者も受け入れており、来訪された際には生活の写真や状況の報告を行っている。	入居者にとって大切な方との関係が途切れないよう、馴染みの方への年賀状やホームだよりの発送を行っている。毎朝取り組んでいる体操は、懐かしラジオ体操の音楽のメロディーによって取り組まれており、弾む入居者と職員の掛け声がリビングホールから伝わってきた。	今後も入居者の趣味や特技、こだわり等を把握し継続して支援されることに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	季節ごとの行事や、1日1～2回のレクリエーションを展開し関わり合いが持てるよう関係構築に努めている。また、1・2階合同レクリエーションの時間を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族や、本人からの相談があった際は、時間を設けて相談にのっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活にて、個人の会話や行動にて意向を見つけ出す努力をしている。困難時は、本人本位の生活を尊重している。本人の生活を大切にしております	ホームは『自分らしさを大切にするケア』を理念の一つに掲げており、本人らしく生活できるよう、両ユニットの職員が語りかけを行い気づきを共有している。また、家族の来訪時や電話により近況を伝えながら思いや意向について気づかれたことがないか確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビューシートによる情報収集、家族の情報、これまでの利用機関からの情報、本人の会話をもとに把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りによる生活状況の把握、カンファレンス、個別記録、日課表をもとに把握している。有する能力については、レクやIADL参加を促しコミュニケーションと共に現状把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、家族、他スタッフ、主治医等と必要に応じて話し合い、評価、介護計画作成を行っている。	本人・家族の思いや意向、職員や主治医の意見を取り入れたプラン作成を行い、計画作成担当者はホームの介護の仕方や取り組みを伝えながら、丁寧にプランの説明を行い了承を得ている。また、入院など変化があった場合はその都度見直しを行い、状況に即したプランに変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録とケアプラン実施記録を個別記録に記載し、評価、介護計画作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望や状況に応じた定期的な往診・受診、必要なりハビリを行っている。また、様々なニーズに対応できるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際のボランティア参加や、防災訓練時の消防署立ち入り訓練の協力、安全に生活を楽しめるよう民生員や町内役員を通じて、見守り体制などの協力を促し整えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望がある際は、家族希望のかかりつけ医の受診を支援している。また主治医と相談し、専門医への診察や相談、治療を受けられるよう支援している。	入居時に、本人、家族の希望するかかりつけ医を支援することを説明している。現在、全入居者が母体医師による隔週ごとの往診を受けている。職員は往診に立ち会い入居者の状態を報告しながら医師により直接説明を受け、家族とも共有している。他県に住む家族へはホーム便りや推進会議の議事録とともに診察結果を送付している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護職員・介護職や往診のナースと相談・報告・連絡などの連携を図り、意見交換を行いながら健康管理や医療活用の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療との協働に関しては、医療機関との契約を結んでおり、緊急時には受け入れの体制を協力してもらっている。また、入院した際は、綿密な情報提供と定期的な連絡・相談をもとに訪問も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、家族と主治医、管理者、ナースにて話し合い、家族希望を取り入れた方針を全体にて共有している。また、かかりつけ医と綿密な連絡を取り合い今後の対応を常に話し合っている。事業所の出来ること、出来ないことを見極め終末期の話し合いの際に事前に家族へ伝えている。	管理者は入居契約時に重度化や終末期について指針を基に家族に説明し、必要な時点で主治医や看護師を交えて話し合い本人、家族の意向を確認している。昨年主治医と連携しながら、本人や家族の意向に添いホームでの看取りを支援している。	人生の最終をホームで迎えたいという希望が多く「指針」に沿ったホームでの温かい看取り支援が行われており、新年度も今までの経験を踏まえ研修会等で更に職員の意思統一を図り、本人、家族の思いに応えていくことに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを設置して、見える所に掲示している。またナースによる勉強会や対応・方法についてミーティング時などに定期的に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火研修へ、防火管理者が参加しておりその後の研修発表や勉強会・避難訓練にて避難方法や対策検討を図っている。また、運営推進会議を通じて地域消防団との繋がりを図っている。	昨年度の大水害では近くを流れる河川の決壊により、高台にあるホームへ地域の方が車の避難に来る等、地域協力を果たしている。火災について職員は日頃より、定時に数回火元チェックを行い、建物周辺の点検や、備蓄の確保、災害用ビデオでの机上訓練等を実施し、同時に災害マニュアルについても見直しを行い全職員で変更しないことを確認している。	現在、地元消防団との連携を検討中であり実現に期待したい。また、一部カーテンが防災で無いところについては改善が求められる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を把握し人格を尊重した言葉使いを心掛けているプライバシー対応については、プライバシーに関するマニュアルを整備している。	職員と入居者は季節やテレビ番組を話題にしながら、リビング中が和やかで明るい雰囲気になっている。呼称は苗字や名前にさん付けで対応し本人がじっくりこられる呼び方で統一している。マニュアルや日々のケアを通じて入居者への尊厳やプライバシーへの配慮を共有し、入居者が何時までもその人らしく生活できるよう、身だしなみへの配慮や住環境へも心を配っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の状態や、個人の能力を把握し、状況に合わせた説明を行い、自己決定が出来るような促し・関わりと意思尊重を重視した生活を支援している。希望が表出するような生活に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先とせず、利用者中心とした生活ペースを優先とし、利用者本意の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の個性を活かした整容を心がけ、満足いくおしゃれが出来るように、衣類は本人に馴染みのある物を持参していただいている。着たい服装を選択していただいたり、整容室も訪問、行きつけと柔軟に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に合わせて、一緒に準備や後片付け、食事作りを行っている。また、メニューなどの食事が出来るよう配慮している。誕生会では、誕生者の好きな食事やバイキングを展開し楽しめる食事の提供を行っている。	旬の食材を取り入れ入居者に季節を感じてもらおう工夫している。肉、魚、卵等を業者の配達とし食べやすい大きさや鮮度を心がけている。入居者もテーブル拭きや下膳など出来ることを手伝い得意ななり寿し作りで力を発揮されている。正月、誕生会、ひな祭りなどの行事食やクリスマス会には家族が参加しバイキング食を楽しんでいる。毎食、職員も入居者と同じ料理を摂り、その都度評価をして次に繋げている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に添った水分補給や栄養バランス、個人にあわせた食事形態や量を提供している。摂取が少なめな方には、栄養補助食品の提供や、咀嚼困難な方にはトロミづけや刻み、ミキサー食の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、毎食後に本人に合わせた口腔ケアを行っている。紅茶での殺菌洗浄や、希望者での夜間入れ歯洗浄剤使用など行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し本人に合った排泄が出来るようケアプラン等にも取り入れ支援している。また、トイレでの排泄を基本とし、オムツ使用の軽減に努めている。	自立された方をさり気無く見守りながら、排泄チェック表により個々のパターンを把握し誘導や声かけにより、日中はトイレでの排泄を基本として支援している。排泄用品を時間帯や体調により使い分け、入居者の行動や家族の負担を軽減している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	夜間不眠・食欲不振の影響を理解し、毎日の牛乳摂取や個別散歩・体を動かすレクリエーション・食物繊維の摂取等により、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望があれば、入浴日以外でも出来る限りの対応を行っている。生活習慣や個人の性格を把握し、入浴のタイミングを図っている。午前中の中の入浴実施や、拒否時は無理強いせず時間をずらしたり、曜日をずらしたり等の対応を行っている。	週2, 3回の入浴を支援し、1人で入りたい方には邪魔をしない程度に声をかけゆっくり入ってもらうよう心がけ、拒否される方へは無理には進めず、時間や曜日を変更しながら納得して入ってもらうよう対応している。職員は脱衣場や浴室内の整理整頓を心がけ何時でも気持ちよく入ってもらうよう環境を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めておらず、利用者の状況に応じた対応(不眠時の対話・水分や甘味提供、寄り添い、訴えに添った対応)にて安眠の支援に努めている。便秘の為での不眠へとならぬよう排便管理をチェック表にて管理し対応や処置を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにて情報の共有に努めている。新しく処方されて服薬での症状については申し送りノートに記載し、状態観察や記録に残し変化の確認に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常での家事(掃除・料理・食器拭きなど)外回りの草取りや植物の手入れ、散歩、買い物など、其の人の生活歴に生かした役割や楽しめる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時はもちろん、天気の良い日など外出や散歩を行う様にしている。毎週月、木曜日の買い物外出の実施。	天気の良い日はホーム向かいの駐車場へ散歩に出たり、週の月・木曜日を個別支援の日として地域の商店へ出かけている。家族の協力による遠方への受診や、温泉センターや自宅へ帰っての食事等、定期的な外出も支援されている。地域行事への参加時には席を準備して待ってもらうなど人々との交流も実現している。	今後は家族の来訪時などに一緒に散歩を依頼するなど協力を得ることで、更に入居者の外出の機会が増えていくことが期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失など家族の了承のもと、希望があれば金銭管理を本人にしてもらっている。また、安心感を得る為のお金の所持をいただいている。買い物の際に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書くことが可能な方には、年賀状の作成や、本人が希望時には、自由に出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ある飾り付け、習字の展示、月ごとの絵入りカレンダーを作っている。また、花を玄関先やホールに置いたり、写真の掲載をしている。不快な音や光が無いよう配慮し、廊下は調節出来る照明を設置している。	職員は共有空間であるリビングや廊下、トイレなどの掃除を徹底し、入居者に気持ちよく使ってもらうよう配慮している。特に洗面台は日に数回のチェックを欠かさず続けている。昼食が終わってもリビング内は職員と入居者の笑顔が途絶えることなく、明るい雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを設置して、利用者同士の談話のスペースを確保している。場合によっては、事務所や踊り場でのスペースも使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前から、本人や家族と相談し居心地良く安心して過ごせるように使い慣れた物を持ってきてもらうようにしている。(仏壇・ダンス・こたつ台・化粧台・リクライニング椅子など)本人らしく、個性ある居室の支援に努めている。	入居者に馴染みの整理ダンスや鏡台、椅子などが持ち込まれている。中にはカーペットに小テーブルやテレビを置き、茶の間のように使われている方など、個性ある居室となっている。自ら棒雑巾を持ち掃除をする方も居られ、各部屋は清潔に使用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、段差を解消し、居室やトイレ・浴室などのドアは横開きとなっている。自立を促せるよう手すりを要所に設置し、居室には各自の名前の表札を設置し、トイレ・浴室などにも分かりやすいように場所を明記している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ、事業所の分かりやすい所に掲示している。また、常に方針・目的として理念に添っているか話し合い、共有し、ケアに活かすように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員となるように、町内会費の支払い、地域への協賛金などにも貢献している。交流があるよう、回覧板や年度の隣保会議への出席、ホーム行事の参加や、地域行事への参加をし、相互の交流ができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、シンポジウムの案内や介護についての不明な点は、気軽に訪問し相談をしていただけるよう伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価状況や、改善内容を報告している。その際、改善策を説明し、意見も取り入れ向上に生かしている。又、行事内容、結果報告をしたり、利用者の方の状況を説明し、場合により理解や協力をお願いしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導への参加や不明な点を相談したりし、毎月1回(各1階・2階交互に)熊本市より介護相談専門員の訪問をしてもらい入居者との交流を図ってもらい、情報の共有に努めている。また、生活保護関係では、担当部署と連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を実施しており、玄関の施錠や拘束がもたらす弊害について理解しており、居室・玄関を含め施錠はしていない。身体拘束を行わない方針で取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について学ぶ機会を持ち、虐待の内容などについて勉強会を実施している。スタッフ間にて虐待が見逃されないように話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者虐待の経済的虐待と共に、青年後見人制度についての必要性や仕組みについて話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する不安や疑問点・解約についても含めて、入居契約時に時間をかけて十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活の不満、苦情などはその都度、傾聴し対応を行い、生活の中で組み取っている。また、家族会等にて家族アンケートを実施し、意見を伺う機会を作ると共に、意見書も玄関に設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングを行い、内容により、代表者へ報告しており、意見や提案など聞く機会として反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの状況については、日報やその他、定期的な報告によって状況把握されており、処遇に関しても現場の意見を反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフのスキルアップに関しては、理解されており勉強会や研修参加の働きかけがあり、育成に努めている。研修参加などについては職員の意見を反映される。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加へ協力的に働きかけがあり、その中でのブロック会議にて同業者との交流機会が保たれている。同業者との連携を図り、質の向上へと繋がるよう助言される機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談後に面接を行っている。それにて本人や家族からの不安なこと等を聞き取ると共に他施設職員と綿密な情報収集が出来るよう、機会を設けている。利用時には、その情報を基に安心できる対応に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の際に、インテークシートを持ち寄り、情報収集と共に要望などの把握に努めている。また、「契約の際にも聞く機会を作っており、医療面や入院の対応の説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況に合わせてその時に必要とされるサービスの情報提供やアドバイスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で食事後の食器拭きや、一緒に掃除をしたり、レクリエーションの時間にラジオ体操や一緒に新聞を読んだりしながら、暮らしを共にする関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	身体状況電話連絡以外にも、面会の際など世間話を含め家族の悩みや、利用者の状況報告や今後の対応について話し合い、支える関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方へ年賀状や、やすらぎ便りを送付し、関係が途切れないよう支援している。また、家族以外の面会者も受け入れており、来訪された際には生活の写真や状況の報告を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	季節ごとの行事や、1日1～2回のレクリエーションを展開し関わり合いが持てるよう関係構築に努めている。また、1・2階合同レクリエーションの時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族や、本人からの相談があった際は、時間を設けて相談にのっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活にて、個人の会話や行動にて意向を見つけ出す努力をしている。困難時は、本人本位の生活を尊重している。本人の生活を大切にしております		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビューによる情報収集、家族の情報、これまでの利用機関からの情報、本人の会話をもとに把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りによる生活状況の把握、カンファレンス、個別記録、日課表をもとに把握している。有する能力については、レクやIADL参加を促しコミュニケーションと共に現状把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、家族、他スタッフ、主治医等と必要に応じて話し合い、評価、介護計画作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録とケアプラン実施記録を個別記録に記載し、評価、介護計画作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望や状況に応じた定期的な往診・受診、必要なりハビリを行っている。また、様々なニーズに対応できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際のボランティア参加や、防災訓練時の消防署立ち入り訓練の協力、安全に生活を楽しめるよう民生員や町内役員を通じて、見守り体制などの協力を促し整えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望がある際は、家族希望のかかりつけ医の受診を支援している。また主治医と相談し、専門医への診察や相談、治療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護職員・介護職や往診のナースと相談・報告・連絡などの連携を図り、意見交換を行いながら健康管理や医療活用の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療との協働に関しては、医療機関との契約を結んでおり、緊急時には受け入れの体制を協力してもらっている。また、入院した際は、綿密な情報提供と定期的な連絡・相談をもとに訪問も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、家族と主治医、管理者、ナースにて話し合い、家族希望を取り入れた方針を全体にて共有している。また、かかりつけ医と綿密な連絡を取り合い今後の対応を常に話し合っている。事業所の出来ること、出来ないことを見極め終末期の話し合いの際に事前に家族へ伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを設置して、見える所に掲示している。またナースによる勉強会や対応・方法についてミーティング時などに定期的に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火研修へ、防火管理者が参加しておりその後の研修発表や勉強会・避難訓練にて避難方法や対策検討を図っている。また、運営推進会議を通じて地域消防団との繋がりを図っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を把握し人格を尊重した言葉使いを心掛けているプライバシー対応については、プライバシーに関するマニュアルを整備している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の状態や、個人の能力を把握し、状況に合わせた説明を行い、自己決定が出来るような促し・関わりと意思尊重を重視した生活を支援している。希望が表出するような生活に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先とせず、利用者中心とした生活ペースを優先とし、利用者本意の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の個性を活かした整容を心がけ、満足いくおしゃれが出来るように、衣類は本人に馴染みのある物を持参していただいている。着たい服装を選択していただいたり、理容室も訪問、行きつけと柔軟に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に合わせて、一緒に準備や後片付け、食事作りを行っている。また、メニューなどの食事が出来るよう配慮している。誕生会では、誕生者の希望を聞き、好きな食事、場合によりケーキを使用せず好物の饅頭等の提供を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に添った水分補給や栄養バランス、個人にあわせた食事形態や量を提供している。摂取が少なめな方には、栄養補助食品の提供や、咀嚼困難な方には刻みや、一口大の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、毎食後に本人に合わせた口腔ケアを行っている。紅茶での殺菌洗浄や、希望者での夜間入れ歯洗浄剤使用など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し本人に合った排泄が出来るようケアプラン等にも取り入れ支援している。また、トイレでの排泄を基本とし、オムツ使用の軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	夜間不眠・食欲不振の影響を理解し、毎日の牛乳摂取や個別散歩・体を動かすレクリエーション・食物繊維の摂取等により、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望があれば、入浴日以外でも出来る限りの対応を行っている。生活習慣や個人の性格を把握し、入浴のタイミングを図っている。午前中の中の入浴実施や、拒否時は無理強いせず時間をずらしたり、曜日や時間帯をずらしたり等の対応を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めておらず、利用者の状況に応じた対応(不眠時の対話・水分や甘味提供、寄り添い、訴えに添った対応)にて安眠の支援に努めている。便秘の為での不眠へとならぬよう排便管理をチェック表にて管理し対応や処置を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにて情報の共有に努めている。新しく処方されて服薬での症状については申し送りノートに記載し、状態観察や記録に残し変化の確認に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常での家事(掃除・料理・食器拭きなど)外回りの草取りや植物の手入れ、散歩、買い物など、其の人の生活歴に生かした役割や楽しめる支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時はもちろん、天気の良い日など外出や散歩を行う様にしている。毎週火、金曜日の買い物外出の実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	紛失など家族の了承のもと、希望があれば金銭管理を本人にしている。また、安心感を得る為のお金の所持をいただいている。買い物の際に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書くことが可能な方には、年賀状の作成や、本人が希望時には、自由に出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ある飾り付け、習字の展示、月ごとの絵入りカレンダーを作っている。また、花を玄関先やホールに置いたり、写真の掲載をしている。不快な音や光が無いよう配慮し、廊下は調節出来る照明を設置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを設置して、利用者同士の談話のスペースを確保している。場合によっては、事務所や踊り場でのスペースも使用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前から、本人や家族と相談し居心地良く安心して過ごせるように使い慣れた物を持ってきてもらうようにしている。(仏壇・ダンス・こたつ台・化粧台・リクライニング椅子など)本人らしく、個性ある居室の支援に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、段差を解消し、居室やトイレ・浴室などのドアは横開きとなっている。自立を促せるよう手すりを要所に設置し、居室には各自の名前の表札を設置し、トイレ・浴室などにも分かりやすいように場所を明記している。		